

会 議 録

会 議 名		平成 29 年度 第 1 回 八王子市環境推進会議				
日 時		平成 29 年 6 月 29 日 (木)	開 始	10 時 00 分	終 了	12 時 30 分
場 所		八王子市役所職員会館 2 階 第 3 会議室				
出 席 者 氏 名	委 員	【環境市民会議】 依田 和子、栗田 和仁、奥村 司、佐藤 晃、浅田 政勝、谷村 伸一（議長）、千明 武紀、 田中 猛、沼田 政見、加納 啓有、山下 明子 【市民委員】 飯沢 由里香、小沼 廣、吉川 政雄 【市職員】 小山総合経営部長、佐久間環境部長（副議長）、原田資源循環部長、池内水循環部長、 守屋都市計画部長、三輪まちなみ整備部長、南部環境政策課長 以上 21 名				
	事務局	環境部環境政策課 : 平井課長補佐、星主査、三田主任、山田主事 資源循環部ごみ減量対策課 : 木下課長、河井主査、日野主任 以上 7 名				
欠席者氏名		高橋 一郎 以上 1 名				
議 題		1. 委員紹介 2. 議長・副議長選任 3. 議題 (1) 第 2 次環境基本計画の平成 28 年度の実績及び評価について (2) ごみ処理基本計画の改定について (3) LAS-E 平成 28 年度の独自目標達成状況等について				
公開・非公開の別		公開				
配 付 資 料		【事前配付】 ・ 次第 ・ 資料 1-1 第 2 次環境基本計画の進行管理について ・ 資料 1-2 第 2 次環境基本計画「第 6 章 地域の行動」における各地区の活動実績【平成 28 年度】 ・ 資料 1-3 第 2 次環境基本計画「第 4 章 基本目標」進捗管理シート【平成 28 年度】 ・ 資料 1-4 第 2 次環境基本計画「第 5 章 協働プロジェクト」進捗管理シート【平成 28 年度】 ・ 資料 1-5 第 1 次環境基本計画の環境分野編における管理指標の平成 28 年度の実績・評価 ・ 資料 2-1 ごみ処理基本計画の改定について ・ 資料 2-2 ごみ処理基本計画改定スケジュール 【当日配付】 八王子市環境マネジメントシステム (LAS-E) 平成 28 年度独自目標取組結果 八王子市役所環境マネジメントシステム ガイドライン				
内 容		・ 佐久間環境部長挨拶 ・ 委員の出欠及び配付資料の確認 1. 委員紹介 八王子市環境推進会議第 8 期委員の紹介 2. 議長・副議長選任 八王子市環境推進会議の議長及び副議長の互選 谷村委員が議長、佐久間委員が副議長として選任される。				

3. 議題

(1) 第2次環境基本計画の平成28年度の実績及び評価について

・第2次環境基本計画の進行管理について、資料1-1に基づき、事務局（環境政策課）より説明した。

【説明内容抜粋】

■第2次環境基本計画は、基本施策、協働プロジェクト及び地域の行動で構成されており、望ましい環境像の実現のため、市民・事業者、環境保全団体及び市は、それらに取り組み、点検・相互評価を行う。

・第2次環境基本計画「第6章 地域の行動」における各地区の活動実績について、資料1-2に基づき、各地区より説明した。

【説明内容抜粋】

■【中央地区】「ごみの分別徹底とリサイクルの推進」では、各種イベントに広く参加し、配布袋として、レジ袋削減のため紙パックを再利用した。また、「環境教育・環境学習などの推進」では、例年土曜日に実施している自然体験講座を日曜開催に変更したことで、定員を越える応募があり、盛況であったため評価を十分に組み込んだとした。

■【北部地区】「緑地保全活動」では、各種環境保全活動団体と緑地を保全整備する活動実施。平均でおよそ月に5,6回活動することができ、十分に組み込んだ。また、「地区の環境マップ作成」では、更新内容を検討し、自然体験講座などの参加者に配布することで、地区の環境資源を広めている。

■【西部地区】「河川・湧水の水質調査」では、主に大沢川・城山川の水質調査を実施。十分に組み込んだが、今後は川口地区及び恩方地区の水質調査も検討している。また、「地区の主な取り組み以外の特色ある取り組み」では、年2回地区の取り組みをまとめた環境レポートを元八王子地区に回覧配布した。

■【西南部地区】「高尾山の環境保全活動」では、年4回調査活動及び環境パトロールを実施。過去11年間の樹木調査結果をまとめ、多摩環境事務所へ報告した。また、「地区の主な取り組み以外の特色ある取り組み」では、地域の小学校へ環境教育支援を5校7学級計26回実施した。

■【東南部地区】「東南部駅周辺のきれいさ評価や北野駅の清掃活動」では、地区内の6駅周辺でごみを拾い、数を調査する「きれいさ評価」を実施した。また、「地域の自然・歴史の調査と勉強会と自然体験講座」では、自然体験講座「いかだで川下り」を実施。子どもたちや地域の方々と交流を深めることができた。

■【東部地区】「花壇の維持・管理」では、花の植え替えや土作りなどを実施。第34回全国都市緑化はちおうじフェア開催に向け、活動が活性化された。また、「地区の主な取り組み以外の特色ある取り組み」では、会員向けの学習会を計6回実施したほか、自然観察路マップを作成。マップはスマートフォンでも閲覧できるようネット上に掲載した。

【質疑・応答及び意見】

■各地区で河川清掃を実施しているが、町会とはどう連携をしているのか。
→中央地区では、特に連携していない。河川清掃は各種イベントにあわせて行う形をとっている。実際に町会へ声掛けはおこなってきたが、なかなか都合がつかない。

東南部地区で実施している河川清掃のうち、浅川流域市民フォーラムと一緒に実施するものは町会等と連携をとっている。きっかけは会員に町会役員がいたため。

北部地区では川の清掃デーにて町会と連携をとっている。連携をとるには環境市民会議の活動を広くPRすることが重要と考えている。

■西部地区では主な取り組みとして特定外来植物の駆除を実施しているの、他地区でもぜひ実施してほしい。

→特定外来植物駆除は実施しているが、駆除の意図を理解していない市民から苦情を受けることがある。そのため、市としても第2次環境基本計画に明記している事項なので、より一層の周知をお願いしたい。

■西部地区では、平成28年度に大気汚染測定を実施しなかった。理由としては、我々が測定した結果が活かされていないと感じたためである。

→市では大気測定室を7か所設置し測定を行っているが、細かい地点での結果として、ぜひ協力してほしい。

- 大気測定を含めた定点観測は、毎年実施することが重要。2～3年ではわからずとも10数年続ければわかることがあるかもしれない。
- 大気測定関連でいえば、国道16号（八王子バイパス）の無料開放に伴い、交通量が2倍以上になっているらしいが、測定結果ではそこまで数値は変動していない。
- 東部地区で実施している学習会は素晴らしい取り組みだと思う。社内でも環境配慮に関する意識の足並みが揃わないと感じることもあるので、ぜひ他地区でも実施してもらえれば、活動により深みがでると思う。

南部 かや委員より各地区の評価案が提案された。

＜中央地区＞

年間を通し市民センターまつりやイベントに積極的に参加し、地元に着し親しみやすい活動を展開している。また、その際の配布袋に紙パックを使用するなど新たな活動も展開していることは、高く評価できる。浅川での活動や環境教育支援、「クールセンター八王子」に協力している温暖化防止活動など、多岐にわたる活動を行っている。引き続き活発な活動を進めていただきたい。

＜北部地区＞

地域の団体と協働した緑地保全活動を継続的に行い、企業、学生の緑地保全活動の支援や小中学生への緑地整備体験の実施など、市内に残る里山林の保全活動の啓発及び活用に対する貢献度はとても高い。また地区内の谷地川での継続的な水質調査に加え、水量調査、生物調査を行い、河川の保全にも努めている。地区の環境マップの更新を計画されているが、加住丘陵や滝山城址など市の魅力を発信することにもつながるため、是非充実させ環境資源を広めてもらいたい。

＜西部地区＞

特定外来植物の刈込駆除は、生態系の保全という観点からも高く評価できる。ダンボールコンポストを活用した学習授業支援や西部地区や他の地区での環境教育支援に積極的に取り組んでいる。また、河川の水質調査や湧水調査をはじめ、大沢川や城山川のクリーン活動などの清掃活動を継続し、その実績を「環境レポート」として年2回地元町会などへ情報発信していることは、地域に向けた環境保全活動として高く評価できる。今後は地域と協力して活動を拡大してもらいたい。

＜西南部地区＞

高尾山で継続して実施している環境保全活動や水辺を使った体験講座、環境パトロール、地区内の自然や史跡などを紹介する地区の宝の掘り起し、小学校への環境教育支援など、地区の環境保全や環境意識の向上につながっていると高く評価できる。新たにふるさと川まつりへの参加をしたことやいちょう祭りで行っているごみ分別指導などの活動は地域貢献に大きな成果をあげている。29年度に開催される全国都市緑化はちおうじフェアへの協力など、引き続き地域と連携した取り組みを進めていただきたい。

＜東南部地区＞

東南部地区内6駅周辺のごみの量によるきれいさ評価や、町会と連携した喫煙マナーアップキャンペーン、駅周辺や川の清掃活動を継続して実施しており、データからもきれいなまちづくりへの効果が表れていることは高く評価できる。また、小学生に向けた自然体験講座「イカダで川下り」や地域の歴史や自然を紹介する自然体験講座、市民センターまつりへの参加など地域へ向けた環境教育となっている。今後も引き続き、地域と連携した清掃活動やこれらの講座を行い、より多くの人の意識啓発につなげていただきたい。

＜東部地区＞

長池公園や堀之内寺沢里山公園などでの里山保全活動や、南大沢駅前の大型花壇の維持管理など地域の様々な団体と連携して実施している活動は、良好な環境づくりへの貢献度は高いと評価できる。また、隔月に行う会員向けの学習会は活動に深みと広がりを与え、ステップアップするためのとても良い取り組みである。ホームページを使用した自然観察路マップや樹木マップの情報発信は、地元だけでなく広く市民に向けた環境啓発活動といえる。また、これらのマップを使用した自然体験講座を、全国都市緑化はちおうじフェアにおいて開催するなどの取り組みも進んでおり、引き続きご協力いただき、盛り上げていただきたい。

- 【議長】南部委員の評価案を環境推進会議の相互評価として取り上げてよろしいか。

全員承認

・第2次環境基本計画「第4章 基本目標」における実績及び評価について、資料1-3に基づき、事務局（環境政策課）より説明した。

【説明内容抜粋】

■Ⅰ-3「まちなかのみどりの保全・創出」は、成果指標「グリーンマッチング八王子制度を利用し管理している面積」のH28実績が892㎡であり、アンケートなどを実施し土地所有者に制度の周知を図っているが、面積の増加に結びついておらず、増減なしとなっていることからやや遅れている。施策の展開としては、農地バンク制度利用農地増等により取り組みをほぼ達成しており、総合評価としても「ほぼ達成した」と評価し、今後も里山サポーター育成講座等を活用し、担い手の育成や斜面緑地保全区域への派遣等により拡充していく。

■Ⅰ-4「水資源の保全と再生」は、成果指標「雨水浸透施設設置数」のH28実績が1,805基（95基設置）であり、目標である125基設置が達成できず、やや遅れている。施策の展開としては、市施設や道路施設内への雨水浸透施設の促進等により取り組みをほぼ達成又は達成しており、総合評価としては「ほぼ達成した」と評価し、今後も雨水浸透施設設置のPRや流出抑制の徹底により拡充していく。

■Ⅱ-1「ごみの発生抑制と資源化の推進」は、成果指標「1人1日当たりのごみ総排出量」のH28実績が799gであり、中間目標を達成しているため順調である。施策の展開としては、イベントでの生ごみ資源化の啓発等により取り組みをほぼ達成又は達成しており、総合評価としては「ほぼ達成した」と評価し、今後も適正な排出方法の指導等により取り組みを継続する。

■Ⅱ-2「廃棄物の適正処理」は、成果指標「埋立処分量の推移」のH28実績が60t/年間であり、中間目標を達成しているため順調である。施策の展開としては、コンクリートブロックの再資源化等により取り組みをほぼ達成又は達成しており、総合評価としては「達成した」と評価し、今後も不燃ごみの更なる資源化等により取り組みを継続する。

■Ⅱ-3「二酸化炭素（CO2）排出量の削減」は、成果指標「市民1人当たりの年間CO2排出量の削減割合（平成12年度比）」のH28実績が21.6%（平成26年度値）であり、運輸部門「自動車の燃費向上」等の影響で大きく削減が進んだため、順調である。施策の展開としては、イベントによる省エネ国の普及拡大等により取り組みを達成又はほぼ達成しており、総合評価としては「ほぼ達成した」と評価し、今後もクールセンター八王子や地球温暖化防止活動推進員を中心に取り組みを継続する。

■Ⅲ-2「環境情報の提供、収集及び活用」は、成果指標「『エコひろば』SNSページ登録者数」のH28実績は615人（投稿への「いいね」の数）であり、年度目標の500人を大きく上回ったため、おおむね順調である。施策の展開としては、Facebookページへの投稿を増やしたこと等により取り組みをほぼ達成しており、総合評価としても「ほぼ達成した」と評価し、今後も多様な媒体を使い、広く市民に情報発信を行うことにより、取り組みを拡充していく。

■Ⅳ-2「安全で健康な暮らしを守る」は、成果指標「周囲の生活環境（大気汚染、騒音・振動）について良いと感じている市民の割合」のH28実績は44.9%であり、前年度から伸びているが、中間目標に届いていないことからやや遅れている。施策の展開としては、環境状況の把握等により取り組みをほぼ達成しており、総合評価としても「ほぼ達成した」と評価し、今後も環境測定の実施・情報提供等により、取り組みを継続する。

【質疑・応答及び意見】

■Ⅱ-3「二酸化炭素（CO2）排出量の削減」の成果指標評価理由に『運輸部門で「自動車の燃費向上」等により減少傾向が続き、大きく削減が進んだ』とあるが、その根拠はなにか。また、自動車の燃費向上を理由として掲載していいものなのか。

→本実績値は都内の全62市区町村が連携して取り組んでいる「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」が行っている統計調査の結果から算定している。運輸部門や産業部門といった分野別算定結果は把握しているが、「自動車の燃費向上」による細かい数値までは把握できていない。評価理由については、燃費向上等も含まれるのでこのままとするが、次回以降は表現について検討する。

■Ⅱ-1「ごみの発生抑制と資源化の推進」では、1人1日当たりのごみ総排出量が減少したとのことだが、家庭系ごみが減量したのか。

→持ち込み手数料の値上げにより、事業系ごみが多く減っている。また、総ごみ量には資

源物も含まれており、ペットボトル及び缶の軽量化や新聞の量の減少によって資源物重量が減っているため総ごみ量が減り、結果として1人1日当たりのごみ総排出量が減少している。家庭系ごみについては大幅に減少しているわけではないので、ダンボールコンポストで生ごみをたい肥化する取り組みや食品ロスの発生抑制を周知し、より一層の家庭系ごみ削減へ向け取り組んでいく。

■ごみ総排出量の詳細一覧は公表されているのか。

→市ホームページに「清掃事業概要」を掲載しており、そちらに品目ごとの内訳を掲載している。また環境白書にも概要を掲載している。

■総合評価について、15ある基本施策のうちほとんどが「ほぼ達成した」であり、評価基準がどうなっているのか。特にⅠ-2「森林の循環の強化」では、取り組み実績がパソコン40台の配布といったもので「ほぼ達成した」と評価しているのか。

→評価基準については、資料1-1にも掲載しているが、「達成した」、「ほぼ達成した」、「達成できず」の3段階で評価している。Ⅰ-2「森林の循環の強化」に関しては、数値目標を設定していない基本施策であるため、各所管で行っている取り組みを掲載しており、目標達成へ向け取り組みは行っているため「ほぼ達成した」とした。

■3段階評価ではどうしても真ん中の評価が多くなるので、5段階くらいにしたほうがよい。

→見直し時に検討する。

■Ⅱ-1「ごみの発生抑制と資源化の推進」では家庭系ごみ減量に対する取り組みとしてダンボールコンポストを周知啓発しているが、かなり普及啓発してきたので今後ダンボールコンポストが広まるのは難しいのではないかと思う。また、Ⅱ-3「二酸化炭素(CO2)排出量の削減」に関連して言えば、以前は町会会館の会議室等利用時に冷暖房を利用する時期は100円追加徴収されていたが、最近では利用料が一律100円値上げになっているため、冷暖房が使い放題になってしまっている。はちおうじ省エネ国に登録している市民は省エネに意識的な人が多いと思うので良い結果が報告されると思うが、会員だけでなく市民に広く省エネを周知できればと願っている。

■基本目標は平成35年度まで変わらないのか。

→基本目標については、基本計画には平成35年度までということで策定したが、策定から5年が経過した段階で中間見直しを考えている。来年度から見直しを始める時期となるので、その際はぜひご意見をいただきたい。

■【議長】環境推進会議の相互評価については委員の発言を元に事務局が取りまとめるという形をお願いしたい。まとめた内容については議長に一任とする。

全員承認

・第2次環境基本計画「第5章 協働プロジェクト」における実績及び評価について、資料1-4に基づき、事務局（環境政策課）より説明した。

【説明内容抜粋】

■プロジェクトⅠ「里山復活プロジェクト」は、管理が行き届いていない里山を対象としており、H28は「上川の里」特別緑地保全地区整備等により「ほぼ達成した」と評価し、今後は緑化フェアでの活用など、取り組みを拡充していく。

■プロジェクトⅡ「生ごみ資源化促進プロジェクト」は、家庭から発生する生ごみを対象としており、H28は生ごみリサイクルリーダー等により「ほぼ達成した」と評価し、今後は生ごみ減量・資源化の冊子の作成など、取り組みを維持していく。

■プロジェクトⅢ「省エネ応援プロジェクト」は、市民・事業者のエネルギー使用量を対象としており、H28は地球温暖化防止活動推進員の「家庭の省エネエキスパート検定」取得や普及啓発等により「達成した」と評価し、今後は同推進員の活動の幅をさらに広げ、取り組みを拡充していく。

■プロジェクトⅣ「環境教育サポートプロジェクト」は、小・中学校の児童・生徒を対象としており、H28は環境教育・学習における地域の人材の活用等により「ほぼ達成した」と評価し、今後も環境学習により環境意識の向上を図り、取り組みを拡充していく。

■プロジェクトⅤ「地域の環境美化プロジェクト」は、居住地周辺の美化を対象としており、H28は公園アドプトや水辺の水護り等により「ほぼ達成した」と評価し、今後も引き続き環境美化に努め、取り組みを拡充していく。

【質疑・応答】

■プロジェクトⅡ「生ごみ資源化促進プロジェクト」に掲載しているダンボールコンポストは、今後も周知を継続していくのか。
→ダンボールコンポストは手軽にできる取り組みとして周知している。また、ダンボールコンポストは協働が重要であるから生ごみリサイクルリーダー等を養成している。今後も取り組みを深めるため、粘り強く周知を行っていく。

■【議長】環境推進会議の相互評価については委員の発言を元に事務局が取りまとめるという形をお願いしたい。まとめた内容については議長に一任とする。

全員承認

・第1次環境基本計画の環境分野編における管理指標の平成28年度の実績・評価については、時間の都合上、資料1-5の提出をもって報告とした。

(2) ごみ処理基本計画の改定について

八王子市ごみ処理基本計画の改定について、資料2-1に基づき、事務局（ごみ減量対策課）より説明した。

【説明内容抜粋】

■計画名を「八王子市ごみ処理基本計画」とし、根拠は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」であり、中間目標年度である平成29年度となり、社会情勢の変化を踏まえた見直しを行う。今までの経緯としては、平成25年3月現八王子市ごみ処理基本計画を策定し、平成27年4月には、戸吹不燃物処理センター手選別ライン導入や持込ごみ処理手数料改正を行い、同年9月に新館清掃工場着工準備として旧工場解体工事を開始した。

■現計画の進捗状況としては、中間目標に対し、「埋立処分量」、「1人1日あたりの総排出量」及び「CO2排出量」を達成している。各課題としては、「リサイクル率」では資源化品目等の再検討、「ごみ・資源物処理経費」では各事業の見直し等が必要である。

■計画期間は平成31～40年度までの10年間とし、市民各層から幅広く意見聴取する。各種懇談会や審議会で議論した上で素案を作成し、パブリックコメントの実施により作成した原案を環境審議会へ諮問し、答申を受けて計画を策定する。

【質疑・応答】

■現計画の進捗状況として「リサイクル率」が資源物の軽量化により目標値の達成が困難とあるが、なぜか。

→リサイクル率の算定方法は、「資源物の資源化量÷ごみの総重量」であり、資源物が軽量化すれば分子が減少するため、リサイクル率は減少する。

(3) LAS-E 平成28年度の独自目標達成状況等について

八王子市環境マネジメントシステム（LAS-E）平成28年度独自目標取組結果及び八王子市役所環境マネジメントシステムの監査について、当日配布資料に基づき、事務局（環境政策課）より説明した。

【説明内容抜粋】

■八王子市環境マネジメントシステム（LAS-E）の第1ステージである平成28年度独自目標の実績報告は表のとおりである。

■最終的に5項目中3項目が目標未達成となっている。

■平成29年度からはLAS-Eに替わり、「八王子市役所環境マネジメントシステム」としてスタートしている。これは、市の事務事業の実施による環境負荷の低減に取り組むための「八王子市役所エコアクションプラン」を効果的に推進するために導入した。

■監査については、LAS-Eでは現場監査であったが、八王子市役所環境マネジメントシステムでは部に対して集合監査を実施する。

	<p>【質疑・応答及び意見】</p> <p>■部に対しての集合監査に変更とのことで、部署特有の状況等を見られなくなるのではないかと。</p> <p>→直接見ることはなくなるが、集合を実施し、監査状況によっては現場監査も行う可能性がある。</p> <p>■集合監査に変更ということは、現場監査より簡単になってしまうのか。</p> <p>→基本的に現場で実施するか集合してもらうかの違いだけで、内容は変わらない。</p> <p>■集合監査についても、見える化を実施してほしい。</p> <p>■現場監査を実施しないというのは監査の質が落ちないのか。</p> <p>→現場ではないが、昨年同様対面で実施し、そこで問題があれば現場監査も実施する。</p> <p>■集合監査に変わった今年度から新たに、各課に具体的な目標を立てさせ、それに対する達成状況も管理することとし、取り組みが後退することはないよう工夫している。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>署名人</p>	<p>平成 29 年 9 月 2 日 署名人 浅田 政勝</p>